

# 秋分儀式

I O S 儀式魔術文書 AE10A



THE OFFICIAL ORGAN  
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D  
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING  
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

## 第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春秋分点の前後48時間以内に実施すること。2010年の秋分点通過は9月23日(水)12時09分(日本標準時)である。儀式内容は、ベト・エルの儀式を準用して秋分の祝祭を実施する。あわせて不遇のときを迎えた兄弟VPPEPの追悼を行う。

### 1 ベト・エルのカバラ

#### (1) ベト・エルの発展

20年ほど前、ぶ厚いゲルシヨム・ショーレムの著作を読みおえようとしたとき、終章の後半部に18世紀に成立したカバラ集団が現代まで続いている旨の記述があった。<sup>(1)</sup>素直に感動した覚えがある。ショーレムの言うイエルサレム市に263年続いたカバラの学舎こそ、ベト・エル(神の家)、ミドラシュ・ハシディム(献身の学舎)または、イエシバ・ハ・メクバリム(カバリストのイエシバ)と呼ばれるシナゴークである。

ベト・エルは、ゲダリヤ・ハヨーンが1737年に創設した。指導者が地上を去ると、次の指導者が就任するというスタイルで、1751年にイスラエル・ヤコブ・ベン・ヨム・トム・アルガジが第2代の指導者に、そのわずか5年後、1756年にシャローム・ミツラヒ・シャラビ(1720-1777)が第3代指導者に就任した。<sup>(2)</sup>シャラビ(RaSHaSH)は、創設直後のベト・エルを大きく育てた人物である。このシナゴークは、約200年間はトルコの支配下にあり、英国の統治を経て、イスラエル共和国の統治下に入った。



この間に幾多の戦乱と迫害に直面したが、今日まで継続している。1927年の大地震では、シナゴークの建物が倒壊した。このときは英国の当局が、建造物の修繕ではなく破却を命じ、翌年に建て替えている。<sup>(3)</sup>シナゴークは、1948年に再度、破壊され、第3次中東戦争(6日戦争)のあった1967年に旧市街から西エルサレムの新市街に移築された。<sup>(4)</sup>

ベト・エルは、カバラだけを学習していた訳ではない。学習領域は大きく3種類に分かれていた。ひとつはユダヤ教の顕教部分、二つ目は哲学、三つ目がカバラである。

厳密にはベト・エル内部のイエシバ・ハ・メクバリムがカバラを学習していた。イスラエルのシナゴークは、アシュケナージ系とセファルディ系の2系統であったが、ベト・エルはセフ

(1) ゲルシヨム・ショーレム『ユダヤ神秘主義』法政大学出版局、1985年、435頁。

(2) Lawrence Fine, *Physician of the Soul, Healer of the Cosmos : Isaac Luria and His Kabbalistic Fellowship*, Stanford : Stanfird University Press, 2003, p.6.

(3) Lawrence Fine, "A Mystical Fellowship in Jersalem", in *Judaism in Practice : From the Middle Ages through the Early Modern Period*, Princeton : Princeton University Press, 2001, p.211.

(4) Walter P. Zenuer, "Remembering the Sages of Aram Soba(Aleppo)", in *Critical Essays on Israeli Society, religion, and government*, New York : State University of New York Press, 1997, p.145.

アルディ系であった。当時、アシュケナージ系のカバラ集団では、奇跡の祈願、護符の作成などの魔術的な実践カバラが盛んであったが、ベト・エルではイサク・ルーリアの思想を継承し、敬神の祈り (piety) と瞑想が重視された。<sup>(5)</sup>

## (2) シャラビのカバラ

イエメン人のシャラビは、創設されたばかりのベト・エルに参加して、速やかに頭角を現した。かれは18世紀の著名なカバラの師父となり、後代に強い影響を及ぼした。前項で述べたように、ベト・エルの思想の中核は獅子のカバラである。獅子のカバラの特徴は、その思弁哲学的要素にあるが、実践面でも興味深い特徴がある。たとえば、先行するコルドヴェロなどの思想を噛み砕いて「敬神の祈り」を行うことが、サフェドの神秘家の間に広まっていた。アリが示したティクーンの実践とは、敬神の祈り (piety) を通して神性のなかで行われる再組織化及び再構成の内的な力学を用いるものだ。<sup>(6)</sup>

シャラビは、ルーリアの獅子のカバラを基本とし、他の要素も取り込んでいった。

当時流行していたゾーハル流の思潮や、モーシェ・コルドヴェロの教えによれば、セフィロトはカバラを解明する鍵である。しかし、獅子のカバラではパルツーフム (神聖な貌) を重視する。<sup>(7)</sup>

初期のパルツーフム (Mypwcrp) は5つであった。<sup>(8)</sup> 下表の1と2がひとつと数えられ、合計5となる。この表は複雑化していった後期の形態を示す。<sup>(9)</sup>

	パルツーフの名称	その意味	照応するセフィロト
1	アーティカ・カディシャ	聖なる日の老いたる者	上なるケテル
	アーティク・ヨミン	日の老いたる者	ケテルの内的側面
2	アリク・アンピン	長い貌	下なるケテルの外的側面
3	アッパ	父	コクマー及びその準セフィロト
4	アイマ	母	ピナー及びその準セフィロト
5	ドッカー	男性	6ミドゥートとミドゥートの準セフィロト
	ザィール・アンピン	小さな貌	6ミドゥートとミドゥートの10の準セフィロト
6	ヌクバー	女性の小さな貌	マルクートとその準セフィロト

注：1 後期のパルツーフムは、6つとされる。上表では、細分化されたパルツーフが2つ表記されている。

2 セフィロト・ミドゥートは、ケセド~ゲブラー~ティファレト~ネツァク~ホド~イエソドの2つの三幅対 (6セフィロト) である。

3 ヌクバーの正式名称は「ヌクバー・ドゥ・ザィール・アンピン」である。

アリの最も著名な瞑想法に「合一」(単：イフド wdwxy、複：イフディム Mydwxy) がある。人間は有限的存在であり、無限の神を知覚できない。従って、高度なデヴェクウスを

(5) Dan and Lavinia Cohn-Sherbok, *Jewish & Christian Mysticism : An Introduction*, New York : The Continuum Publishing Company, 1994, p.64.

(6) Lawrence Fine, *Safed Spirituality : Rules of Mystical Piety, the Beginning of Wisdom*, Mahwah : Paulist Press, 1984, p.63.

(7) Gabriella Samuel, *The Kabbalah Handbook : A Concise Encyclopedia of Terms and Concepts in Jewish Mysticism*, New York : Tarcher Penguin, 2007, pp.264-266.

(8) R .Raphael Afilalo, *Kabbalah Dictionary*, Kabbalah Edition, 2005, pp.301-304.

(9) Fine, 2003, pp.138f.



アダム・カドモン内部の男性と女性との両極に分かれた四つのパルツーフィム、アッパとアイマ、ザィール・アンピンとヌクバー・デ・ザィールが結合され、アダム・カドモンは再統合される。<sup>(12)</sup>

以上は、ベト・エルで行われた実践のごく表層である。アリの四界の儀礼、宮殿への上昇なども実践された。<sup>(13)</sup>

ベト・エルの創成期を指導したシャラビは、そのアイデンティティ確立に腐心していた。ベト・エルの書庫に残されていたシャラビ等12名の署名入りの「アハヴァト・シャローム（静謐なる愛）」という結社の設立許可証（チャーター）には、ルーリアを師とすることが明記されている。<sup>(14)</sup> サフェドの神秘家集団、特にルーリアの後継者のハイム・ヴィタルとの霊的紐帯が重要視されていたと思われる。

ベト・エルに参加していたアリエル・ベンシオンは、次のように語った。<sup>(15)</sup>

「ベト・エルは神聖なる一体性のなかで生きることを決断したひとつのコミュニティを形成した。これに参加することを望む人々に、学問的な知と禁欲的な自己否定を要求し、大衆より遠い存在であり続けた。」

## 2 司官の配置

### (1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベシヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間（Robing Room）において、光の法衣を纏う。

### (2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロン顕現たる大天使の長上「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

## 3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

---

(12) Lawrence Fine, "The Contemplative Practice of Yihudimu in Lurianic Kabbalah", in *Jewish Spirituality From Sixteenth Century Revival to the Present*, New York : Crossroads Publishing Company, 1987, pp.64-98.

(13) Pinchas Giller, *Shalom Shar'abi and the Kabbalists of BEIT EL*, New York : Oxford University Press, 2008, pp.65-84.

(14) Fine, 2001, pp.210-214.

(15) ショーレム、前掲書、435頁。

## 4 魔術の技法的側面

### (1) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (Mtwx)」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。<sup>(16)</sup>

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。<sup>(17)</sup>

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈禱する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」<sup>(18)</sup>

### (2) 聖四文字の呼吸

聖四文字の呼吸においては、ペリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、hy を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する際に喉を空気が通る音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。<sup>(19)</sup>

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

### (3) 呪歌の力

本儀式においては呪歌を使用する。

ヘブル語においてシーラー hry# (複数形シーローズ twry#) とはシャントを意味する言葉である。『申命記』第31章に説明されるとおり、折りに触れユダヤの民が歌うようにと定められた歌のことだ。

ラビ・シェファール・ゴールドによれば、シャントの恍惚体験は全き献身による観想的空間への移行を可能とする。観想的沈黙の文脈のなかにおいてシャントの力が深化し、発展するための空間が作り出される。シャントは『詩編』23章5に示された「溢れる盃」(コシ・ルバヤ hywr yswk) である。そして、あふれる盃には2種類があり、シャントを唱える者たちのなかに生成される。

第1の盃は、各人の心臓の上にある内的な盃であり、盃には生命と愛の源泉から途切れることのない流れが注ぎ込まれあふれ出ている。シャントは、その流れと自分自身を再結合する。

第2の盃は、シャントを唱える集団のなかに生成される。唱和するシャントの音と、注意力の共有が盃を生む。その盃には神聖な流れが注ぎ込んでおり、集団に属する誰でも盃からあふれる神聖な流れに触れることができる。<sup>(20)</sup>

---

(16) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

(17) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(18) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

(19) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

(20) Rabbi Shefa Gold, "That This Song May Be a Witness : The Power of Chant", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

#### (4) 呪符等の構成

ヘブル語の神聖名は、文字として書かれた場合でも声に出して歌うのと同等の効力を発する。しかし、シャントを正しく用いると特別な効果が生じるのは前出のとおりである。

『マナセの祈り』に曰く「神は深淵を閉じ、力強く誉れある自らの名で封印した」<sup>(21)</sup>

呪符については、アブラフィアの文字のカバラから借用した。聖四文字の文字を分解して使われるシャント及びヘブル語の各文字を連唱するシャントは各所で用いられている。<sup>(22)</sup>

#### (5) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群<sup>(23)</sup>」、言語入力 of 混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作<sup>(24)</sup>）などを利用する。

#### (6) 追悼

故黒田一郎君は、凶手にかかり2010年7月23日（金）に亡くなった。

かれの地上の生は終焉を迎えた。しかし、かれは来るべき世界へ旅立つ途上にある。高名な師父イスラエル・パール・シム・トブは、「金曜日（サバトの晩）に亡くなる者は幸いなるかな、その旅立ちは安らかである」と語った。<sup>(25)</sup> 黒田君、わずかでもやすらかなれ。

2か月を経過し、かれの靈魂の地上的な部分は未だ物理的世界（アッシャー）を彷徨っている。その期間が長くなり、浄化界への意識の統合が遅れると、その靈魂は「死霊（単：マジク qyzm 複：マジキム Myqyzm）」と呼ばれ、人に害をなすおそれがある。<sup>(26)</sup> その最悪の形態が憑依（ディビューク）である。<sup>(27)</sup>

兄弟が混迷のまま、地上を彷徨うのを止め、すべての靈魂が還る場所に戻るのを手助けする必要がある。

ラシは語る。「死の瞬間、正しき者はシェキナーの面貌を見る。死すべき者は、自ら斃れる前に、その影を斃せ。そは死の天使、エル・アザルなり。」<sup>(28)</sup>

死（マベス）の瞬間、人はシェキナーと死の天使を見る。死後、幾ばくかの期間、魂は地上にとどまるが、地上の残滓から高次の靈魂を引き離す苦痛を伴う経験「墓の痛打（チプト・ハ・ケベル）」が起こる。<sup>(29)</sup> 一説によると、死者の靈魂は針で刺すような苦痛を体験するという。しかし、必要な過程なのだ。死者は栄光へと旅立つ。地上の家を離れ、主の家に迎えられる。

われら、声を高くして叫ぶであろう。「光は闇を駆逐せり（イトロン・ハ・オール・ミン・ハ・コーシェク）」と。<sup>(30)</sup> そして、地上的な殻を脱ぎ捨てた靈魂は、光に溶けていく。

(21) The Player of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(22) 一例として、Joseph Naveh & Shaul Shaked, *Amulets and Magic Bowls : Alamaic Incantations of Late Antiquity*, Jerusalem : The Magnes Press The Hebrew University, 1998, pp.44-49.

(23) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(24) グザヴィエ・スロン『認知神経心理学』白水社、1995年、63、64頁。

(25) Norman Lamm, *The Religious Thought of Hasidism*, Hoboken : KTAV Publishing, 1999, pp.496f.

(26) J. H. Chajes, *Between Worlds : Dybbuks, Exorcists, and Early Modern Judaism*, Philadelphia : university of Pennsylvania Press, 2003, pp.11-13.

(27) Gershon Winkler, *Dybbuk : A Glimpse of the Supernatural in Jewish Tradition*, New York : The Judaica Press, 1981, p.9.

(28) Lamm, op. cit., p.508.

(29) G. W. Dennis, *The Encyclopedia of Jewish Myth, Magic and Mysticism*, Woodbury : Llewellyn, 2007, pp.64f.

(30) Lamm, op. cit., p.513.

## 5 身辺の準備

### (1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。(家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等)、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

### (2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

### (3) 直前の手順

開始する前に手を洗い(儀式的沐浴)、法衣(または身体を締め付けない服装)に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

## 第2章 儀式

### 1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側を開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

### 2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

### 3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

### 4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「IOSの兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

## 5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」  
(y)ytss syr) )

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(g)gb gb) )

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」( )pyt Myr) )

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(h)y yst syr) )

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(l)wyd wyy r) gb l t tyb) )

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ バク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命と  
すべての部分を守護するために。」(hy dydy dx) ss r+yq K)p w) )

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。  
わが天蓋を封じる。」(styt why whz wy wyx why tp Pw) )

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

## 6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。

「I O S の神殿に四方位の風を召喚せん。」  
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

PC：「エロウイイー  
( yhl ) わが力の根元よ。 )  
ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー  
( yb twhtw)n h)w# hm#n 汝が授けし息吹よ。 )<sup>(31)</sup>  
テホラー・ヒー  
( yh hrh+ そは清浄なり。 )  
アター・バラター  
( ht) )rb ht) 汝がそを創造せり。 )  
アター・ヤツアルター  
( ht) rcy ht) 汝がそを形成せり。 )  
アター・ネファクター・ビー  
( yb ht) xpn ht) 汝はそを我に吹き寄せる。 )  
ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー  
( wrqb trm#m ht)w また、汝は我がうちにあるそを監視する。 )  
ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー  
( ynpmm w)l+l d+) ht)w また、汝はいつかそを我より取上げる。 )」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター  
( ht) rcyw ht) )rb 創造と形成 )」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー ( yn hnh われはここに )  
ヒー・ネイ・ニー ( yn hnh われはここに )  
ヒー・ネイ・アーニー・ヤー ( hy yn) hnh われはここに、神の息吹の )  
アナ・ホウシーアー ( (#why hn) 加護のあらんことを )」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー  
( (#why hn) hy 息吹の加護あらんこと )」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)  
全員：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。  
雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。  
その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。  
その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

(31) 来る ( )wb) の変化形 (yb) は、「豊が我がうちに入りたり (xwr yb )btw)」(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
エロヘイ・イスラーエル ( l)r#y yhl) 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル ( l)r#y yhl) 主の力よ)」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。  
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。  
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。  
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。  
それは獅子のすがたをもつ炎である。

PCは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
ホウシーアナ ( hn) (#why われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ ( hn) (#why われを助けよ)」

PCはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)  
全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。  
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。  
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。  
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。  
それは鷲の翼のようである。

PCは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
アーニー・ポー ( whb yn) われと名前なきもの)  
エレッツ・カーナーニー ( yn(nk Cr) カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー ( yn(nk Cr) カナンの地よ)」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。  
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。  
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、  
その丘の上に角のある生き物の影が射す。  
生き物は牡牛のように見える。

## 7 神聖なる貌の祝福

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは両手を祭司の手のかたちとし、そのまま額より高く掲げる。

全員が祭司の手をつくり、両手をあげる。

PC：「神聖なる貌の臨在を祝福する。」

全員：「神聖なる貌の臨在を祝福する。」

PCは右手を祭司の手のまま祭壇の上に高く掲げる。左手は脇に垂らし、手を握っている。右手の先端は、神殿の東壁の右側の上端を指している。

PC：「父なるコクマーの上に神聖なる名前を唱えん。

hwhy (ヤーウェー)こそ名前なり。」

全員：「hwhy (ヤーウェー)こそ名前なり。」

PCは右手を脇に下ろし、指を握り、左手を祭司の手にして祭壇の上に高く掲げる。

左手の先端は、神殿の東壁の左側の上端を指している。

PC：「母なるピナーの上に神聖なる名前を唱えん。

hyh) (エーヘイエー)こそ名前なり。」

全員：「hyh) (エーヘイエー)こそ名前なり。」

PCは左手を祭司の手にして祭壇の上に高く掲げ、右手の甲に重ねる。

両手の先端は、神殿の東壁の中央の上端を指している。

PC：「父と母との交わりにより、神聖なる名前が生まれる。

hhywhh)y (イアーハーウーイヤー)こそ名前なり。」

全員：「hhywhh)y (イアーハーウーイヤー)こそ名前なり。」

PCは両手を重ねたまま、その先端を神殿の東の壁の右側の上端を指す。

PC：「父の名前の数は72なり。

yh wyw yh dwy (ヨード・ヒー・ビープ・ヒー)こそ名前なり。」

全員：「yh wyw yh dwy (ヨード・ヒー・ビープ・ヒー)こそ名前なり。」

PCは両手を下ろし、胸の上に重ねる。

PC：「上なる水に思いを馳せる。そは、女性的なる水の上昇なり。」

両手を祭司の手とし、その先を神殿の東壁の左側の上端に向ける。

PC：「母の名前の数は63なり。

yh w)w yh dwy (ヨード・ヒー・ヴァーブ・ヒー)こそ名前なり。」

全員：「yh w)w yh dwy (ヨード・ヒー・ヴァーブ・ヒー)こそ名前なり。」

PCは両手を祭司の手とし、祭壇の上に掲げる。両手の先端は、神殿の東壁の中央のやや上を指している。

PC：「小さな貌なるティファレットの上に神聖なる名前を唱えん。

hwhy (ヤーウェー)こそ名前なり。」

全員：「hwhy (ヤーウェー)こそ名前なり。」

PCは両手を少し下げ、祭壇の上から神殿の東壁の中央のやや下を指す。

PC：「娘なるマルクトの上に神聖なる名前を唱えん。

ynd) (アードゥーナイ)こそ名前なり。」

全員：「ynd) (アードゥーナイ)こそ名前なり。」

PCは両手の位置を微妙に調整し、神殿の東壁の中央を指す。

PC：「小さな貌と娘との交わりにより、神聖なる名前が生まれる。

yhnwdh)y (イアーハドゥーナーイ)こそ名前なり。」

全員：「yhnwdh)y (イアーハドゥーナーイ)こそ名前なり。」

PCは両手を重ねたまま、僅かにあげる。

PC：「小さな貌の名前の数は45なり。

)hw)w)hdwy (ヨード・ハー・ヴァーブ・ハー)こそ名前なり。」

全員：「)hw)w)hdwy (ヨード・ハー・ヴァーブ・ハー)こそ名前なり。」

PCは両手を下ろし、下腹部の上に重ねる。

PC：「下なる水に思いを馳せる。そは、女性的なる水の上昇なり。」

両手を上げ、祭司の手の先を神殿の東壁の中央のやや下に向ける。

PC：「娘の名前の数は52なり。

hhwwhdwy (ヨード・フー・ヴァー・フー)こそ名前なり。」

全員：「hhwwhdwy (ヨード・フー・ヴァー・フー)こそ名前なり。」

PC：「右と左、上と下は結ばれ、まったき合一のなかで、神聖なる貌の臨在が祝福された。」

PC：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。

わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。

汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」<sup>(32)</sup>

PCが高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ピー・ティー・シャーディー  
(yd# Cwbq hyx) #y yl 汝が導きにわが望みを主よ。)

キー・ピー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー  
(hyx) #y yl yd# Cwbq 我が望みを主の導かれるままに。)

シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ピー・ティー  
(Cwbq hyx) #y yl yd# 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・グー・リアー( )yl gw Myts)」

全員：「隠され開示されたり。」

---

(32) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

## 8 追悼

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「宇宙の軸を祭壇に召喚する前に、ひとりの友胞の影に分かれを告げよう。  
われらの間では、誠に誓むべき兄弟VPPEPとして知られ、  
地上の名前を黒田一郎という。  
Fra. Vivat Per Pudentis et Probitis  
汝の影を顕わされたい。」

PCと祭壇との間の何もない床の上に黒い法衣をまとい、頭巾を深くかぶった影が現れる。顔は伏せており、見えない。

PC：「兄弟よ。突然の死により、幻惑され、未だ地上を彷徨う兄弟の靈魂よ。  
汝は春秋分点の力流に押され、生前の習慣により、われらの招請により、  
この高位なる神殿に歩み入った。  
汝は、その力を一心に集めねば、意識をたもつこともできない影である。  
永遠の神性の火花は、未だその影のなかにあるが、このまま地上を彷徨うならば、  
おぼろな影の手から火花は失われ、汝はクリポトとなり果てるだろう。  
されば、聞け。そして、これを見よ。」

PCは、光の剣を取り出し、兄弟の影に歩みよる。

PC：「われは死の天使エル・アザルなり、汝の墓の上で、  
汝を地上につなぐものを、すべて切り払わん。」

PCは、3度、兄弟の影を切る。おぼろな影の身体は、苦痛に身もだえするが悲鳴は聞こえない。

PCは剣を下げ、手招いて言う。

PC：「兄弟よ、正面の壁を見よ。一心に見よ。そこにシェキナーがある。」

床の上の影が祭壇を離れ、東壁に近づいていく、PCは北側に身を開き、その横を影がとおり過ぎていく。PCの身体から大天使エル・アザルの光体が離れ、兄弟PPPEVの左手をとってともに歩いていく。

壁の中央が明るく輝く雲のようなシェキナーに覆われる。大天使は、ヌクバーたるシェキナーに触れた瞬間に、光輝く羽を失い、さらに茫洋とした女性的な像に変貌していく。兄弟の影が光のハローに包まれていく。壁のなかに溶け込む少し前に、かれは神殿の内側を振り向き、顔をあげた。その面はヌクバー・デ・ザールの光に溶け込んで、明確にかたちを表すことはないが、参列する友胞には、確かにかれであることが分かる。

兄弟は、光のなかに溶け、光となる。

ヌクバー・シェキナーの輝く雲が消え、大天使、兄弟VPPEPも消えた。

依然と変わらない不思議な材質でできた神殿の東壁が現れた。

PCが宣言する。

PC：「兄弟は去った。もう苦しみはない。

いつか時空の彼方で、次の生で再会する日まで、安らかなれ」

## 9 秋分の主祭

聖化した四方位の風に取り巻かれ、神聖なる貌の臨在のもと、秋分の秘儀に与るときが来た。

PC：「この場は、光と闇の至聖処なり。  
今、頭上に秋分の太陽があり、  
光は闇と均衡せんとしている。  
われは律法の宰相として、  
秋分の執行を宣言する。」

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。  
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)  
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)  
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)  
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。  
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、  
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。  
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。  
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！  
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！  
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！  
光と闇の主よ。」

## 10 諸天使の出立

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。  
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。  
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (hw#hy)  
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。  
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (h#why)  
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。  
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。  
主の聖霊は、森羅万象の上であり、下であり、内にあり、外にもある。  
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。  
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

## 11 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、  
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA  
I O S  
RITUALE DE  
AEQUINOCTIO AUTUMNO XA

IMPRIMI POTEST : I O S  
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR  
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6  
SEPTEMBER MMX

秋分儀式 AE10A

Copyrights © All rights reserved I O S 2010

2010年9月18日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：現存するベト・エルの門扉